

電子商取引

企業や一般家庭へのインターネットの普及により、電子商取引^①が大きく発展した。企業と個人の電子商取引であるB to C^②では、ネットショッピング^③が広く利用されている。

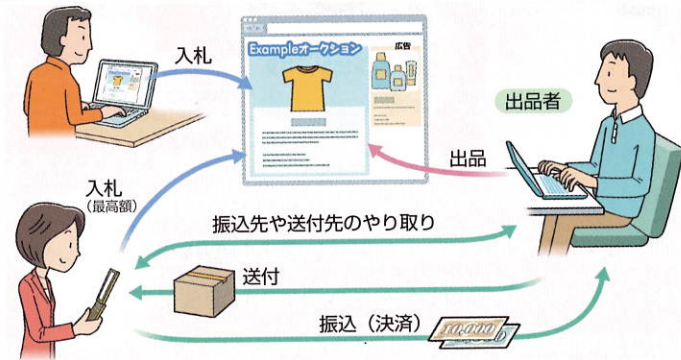
ネットショッピングのメリット・デメリット

	メリット	デメリット
商店	店舗をもたなくてもよい。直接買いに来られない人にも売れる。ロングテール ^④ 。	クレームなどが発生する危険性が高い。
個人	家にいながらにして買い物できる。	実際の商品が見られない。クレジットカード情報の漏洩 ^{ろうまい} などへの不安。

ネットショッピングでは、形のある商品だけでなく、音楽データなど、購入時、すぐにダウンロードできるものもある。

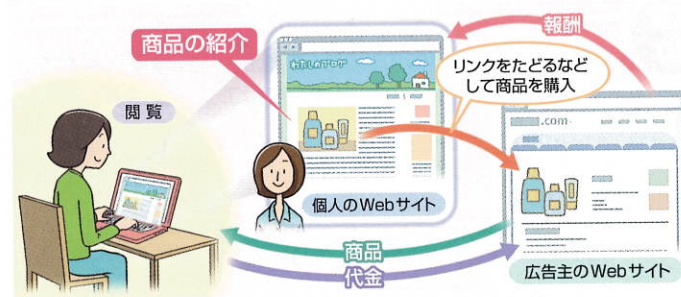
また、ネットオークション^⑤など、C to C^⑥を簡単に行えるようなサービスも提供されている。

ネットオークションのしくみの例



このように、電子商取引が活発になってくると、アフィリエイト^⑦とよばれる広告手法が登場した。ブログなどに広告を設置し、そのブログの閲覧者が広告主の商品あるいはサービスなどを購入した場合、利益に応じてそのブログの管理者にお金^⑧が支払われるしくみである。個人が個人的におすすめしているように見えるブログでも、広告目的の誇張された記事の可能性もあるということを覚えておきたい。

アフィリエイトのしくみの例



① 電子商取引 electronic commerce :

インターネットなどのネットワークを利用して、売買や決済などを行うこと。電子商取引には、ネットショッピング、ネットオークション、インターネットバンキング、オンライントレード（証券取引）などがある。

② B to C (ビーツーシー) Business to Consumer :

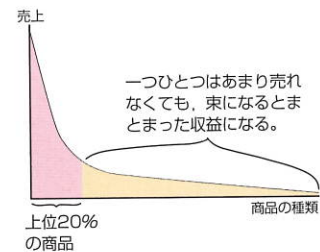
B2Cとも表現される。

③ ネットショッピング internet shopping :

インターネットを通じて買い物ができるサービス。

④ ロングテール the Long Tail :

たくさん売れる商品でなくても、オンラインショップでは収益源になるという考え方。



⑤ ネットオークション internet auction :

インターネットを利用してオークションの場を提供するサービス。ネットオークション詐欺(→p.80)に気をつける必要がある。

⑥ C to C (シーーツーシー) Consumer to Consumer :

個人と個人の電子商取引。C2Cとも表現される。

⑦ アフィリエイト affiliate :

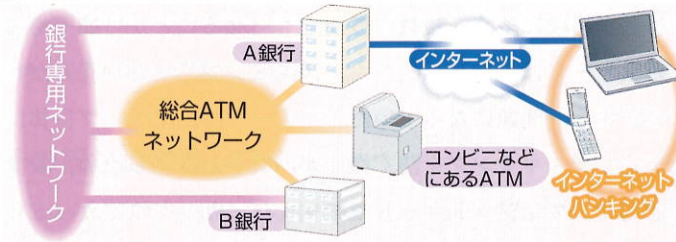
オンラインショッピングなどを運営する企業が、インターネット上で販売を促進するためのしくみ。

銀行のオンラインシステム

自分が口座をもっていない銀行や、コンビニエンスストアからでも、ATM^⑨を用いて自分の口座からの預金や引き出し、振込などができる。これは、銀行のオンラインシステムにより、データベースで預金情報が管理され、銀行間がネットワークで接続されているからである。

さらに、インターネットを利用して家庭のパソコンや携帯電話などから預金残高確認や振込などができるようになった。これをインターネットバンキング^⑩という。

銀行のネットワーク化

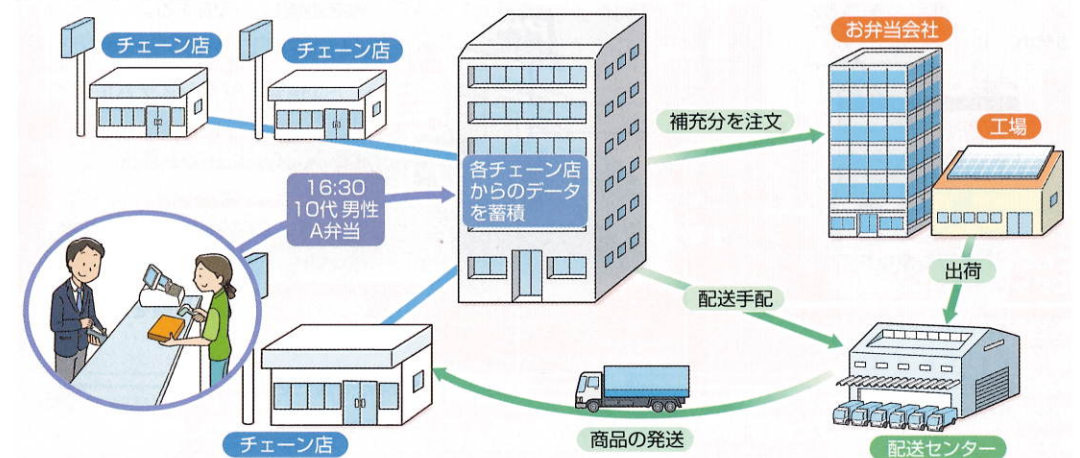


POSシステム

コンビニエンスストアやスーパーマーケットでは、会計時にレジスタで商品についているバーコード^⑪を読み取ることで、販売情報を記録している。これらの情報は、ネットワークを通じて本部にあるデータベースに集められ、商品の追加注文や在庫管理に活用されている。このように、販売時に商品情報などを記録するシステムをPOSシステム^⑫という。

レジスタでは、販売情報だけでなく、日時や購入者の年齢層、性別を記録することもある。それらのデータを集めることで、どんな商品がどんな人にいつ売れるかなどの分析に活用することができ、販売計画や商品開発などにも役立てられている。

POSシステム



⑨ ATM (エーティーエム) Automatic Teller Machine :

現金自動預け払い機。

⑩ インターネットバンキング internet banking

⑪ バーコード bar code :

バーとスペースの組み合わせにより、数字や文字などを機械が読みとれる形にしたもの。

⑫ 二次元コード

縦横2方向に情報をもたせるバーコードもあり、二次元コードという。従来のバーコードよりも多くの情報を扱うことができる。



⑫ POSシステム Point Of Sales system :

販売時点情報管理システムともいわれる。